

## 新型コロナウイルス接触確認アプリ

今回のコロナ禍への対応であらためて世界の広さを実感しました。文化、歴史、政治、生活習慣、衛生意識などこんなにも異なるものかと、思い知らされました。世界の中で日本のように昔からマスクをする習慣がある国は少数派です。この期に及んでもマスクを拒否し、防疫にさして力を入れない国も少なくない状況です。

このような多種多様な民族・国家が一つになってスポーツを楽しむオリンピックは、国境を越えた素晴らしい祭典です。しかし、現在のような特殊な状況下でむやみに交流することの危険性は誰にでも理解できます。今日7月23日からちょうど1年後の開催を目指していますが、事態が好転することを祈のみです。感染状況に不安がある中での強硬開催だけは避けてほしいものです。

コンサートやスポーツ観戦、ショッピング、食事など、不特定多数の人たちと接触する機会は避けることが出来ません。自分自身は最善の防御策を講じて、交通事故と同じようにもらい事故もありますし、まして PCR 検査を受けないかぎり自分自身が感染していないとは誰も言えません。

### □伸び悩む COCOA

厚労省の新型コロナウイルス接触確認アプリCOCOAのダウンロード数は7月21日現在約781万件に達しています。しかし国民の1割にも満たない登録数で本来の機能が発揮できるのでしょうか。

※COCOA= COVID-19 **C**ontact **C**onfirming **A**pplication

便利なシステムとは思いますが、新型コロナウイルス陽性となった人が自ら名乗り出ないと機能しないところに難があると思われる。

感染を確認しアプリに陽性登録した利用者は7月20日現在27人にとどまっています。政府は個人情報の保護から、27人の陽性登録者と接触した人が何人いるかは公表していません。

同様のアプリは世界60カ国以上に広がっているものの、各国でも思うようには伸びていないといえます。日本同様6月中旬から始まったドイツでも現時点で人口の2割以下ですし、3月に導入したシンガポールでも4割程度です。英国の研究チームによると、人口の6割が利用すれば、外出自粛などの対策で大きな効果が見込めるとのことです。

普及には、各業界団体が策定する感染拡大防止ガイドラインに、このアプリ利用を明記して広めると効果的です。

### □埼玉県 LINE コロナお知らせシステム

埼玉で新たに「埼玉県LINEコロナお知らせシステム」を始めました。不特定多数の人が利用する劇場や店舗、イベント会場等にQRコードを掲示し、そこを訪れた人がそのQRコードを読み込めば、後日その同じ場所を同じ時間帯に訪れた人が新型コロナウイルス陽性となった場合、保健所の判断で、検査等の相談を促すメッセージがLINEで送られて来ます。

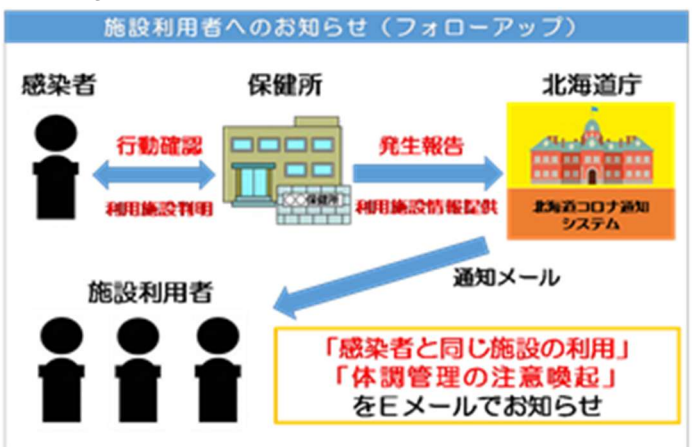


QRコードは、読み取り時に日時を登録するため、店舗等の滞在中に読み取る必要があります。同じ場所であっても、訪問のたびにQRコードを読み取ります。

このシステムは「人⇔人」ではなく「人⇔場所」であり、エリアが埼玉県のみと利用範囲が限定されていますが、利用するにはCOCOAより敷居が低いかもしれません。しかし、LINEが使えなければならないことは言うまでもありません。

### □北海道コロナ通知システム

このシステムは、不特定多数が利用する施設やイベント等の際、QRコードからメールアドレスを登録する方式です。



同じ日に同じ施設を利用した人の中から感染者が確認されるとEメールで知らせます。ただし、濃厚接触者が特定できている場合、通知しないこともあるとしています。

事業者が登録すれば感染防止対策に取り組んでおり、安全性が高いことをアピールできます。